

(議長)

以上で行政報告が終わりました。

日程第5、一般質問を行います。

本定例会の一般質問はお手元に配付のとおり、5名の議員から通告がありました。通告順に従って、順次これを許可いたします。

まず、塚本議員の発言を許可いたします。

「塚本議員」

はい。

(議長)

「塚本議員」

「塚本議員」

令和元年の江差町議会第2回定例会、私から2問ほどの質問をさせていただきます。

早速質問事項に入らせて頂きますが、1問目として、子ども子育て家庭の生活実態調査報告書を受けた今後の対応についてお伺いいたします。第1期江差町子ども未来応援計画(江差町子ども貧困対策推進計画)を2020年に向けて策定する計画であります。報告書の中で、ひとり親世帯の生活貧困世帯の割合が非常に高い実態が判明。貧困世帯の支援は喫緊の課題であると考えております。ま、これの本計画が2020年にたてられるということではありますが、各種支援策を計画策定時に合わせながら、当然いろんな支援策を講ずるものと思われませんが、一日も早く、これらの支援策を打ち出していく必要があるというふうに考えますが、町長のお考えをお伺いいたします。

(議長)

はい、「町長」。

「町長」

塚本議員の貧困世帯への支援に関する、関わるご質問にお答えいたします。昨年度町が実施した子どもと子育て家庭の生活実態調査において、調査世帯、調査対象世帯の11.6パーセント、世帯類型別では、ひとり親世帯の45パーセントが生活貧困世帯に該当する結果となりました。国においては、平成28年度に国民生活基礎調査を実施し、子どもの貧困率は13.9パーセント。ひとり親世帯の貧困率は50.8パーセントと公表しており、当町の実態は全国平均値よりも若干下回った状況にあります。町はこのような子どもの貧困を巡る実態を踏まえ、貧困の状態にある子ども達と支援を結びつける新たな子どもの貧困対策推進計画を、第2期江差町子ども子育て支援事業計画と合わせ、合わせて本

年度策定することとしております。議員ご指摘の計画策定に先んじた支援策の実施につきましては、行政のみの支援だけではなく、町内の多様な団体や事業者、教育機関、行政機関等の連携による新たな支援策の構築が必要不可欠なものと認識しており、今年度において、支援策等を含めた計画を策定してまいりたいと考えているところでございます。現在、子育て家庭への支援策として、各関係課が取り組んでいる第1期子ども子育て支援事業の推進につきましても、周知並びに相談体制の充実に意を注いでまいりたいと考えておりますので、ご理解願えればと思います。

(議長)

「塚本議員」。

「塚本議員」

今ほど、町長からの答弁もありましたが、再度質問させていただきますが、今までもいろいろな支援策がある中でも、なかなか、そういう貧困世帯の中の方々が、制度を理解してなくて、制度を活用、十分できてない方も結構いると、私は感じております。なかなか貧困世帯の方から、こういう支援を受けるというのは、まあ、一般的には心苦しい部分もあるんでしょうが、しっかりと、この制度をまず理解させて、まだ運用されていない世帯がいるのであれば、しっかりとそれを活用し、そして今のこの貧困世帯がしっかりと、自立できるように新たな支援を、この計画をたてながら、並行してですね、次の、この政策の設定を早急に、急いでもらいたいというふうに考えますが、その点について再度お伺いいたします。

(議長)

はい。「町民福祉課長」

「町民福祉課長」

ただ今の制度の理解の部分につきまして、ご回答させていただきます。現在第1期子ども子育て支援事業計画の中で、約70に渡る事業を展開してございます。私ども町民福祉課のみならず、関係課がそれぞれの立場の中で事業を推進させて頂いているわけですが、議員ご指摘のように、それぞれの制度の、事業の中で、いまだまだ十分に理解されていないという部分につきましては、それぞれの立場の中でですね、機会をみながら、十分な理解を得られるような周知を図って参りたいと考えてございます。

合わせて、こういった状況を踏まえながら、次期計画に向けて、会議で議論、更には関係各課での議論を踏まえて、新たな計画を策定して参りたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

(議長)

いいですか。2問目の質問ですか。はい、2問目の質問。

「塚本議員」

2問目の質問に入らせて頂きますが、2020年度から始まる、小中学校のプログラミング教育についてであります。2020年度から実施される新学習指導要領において、プログラミングの教育の必修化が定められております。コンピューターが生活の様々な面で活用されている現代において、いろんなAIとかITが常に新聞を賑わしておりますし、生活に欠かせないものとなっております。これらの仕組みを早くから理解させ、今後の社会を理解させることが、今後の社会において非常に重要と考えております。このことを受けて、既に、本年より3割の町村では、プログラミング教室を既に取り組んでいるという町村もありますが、江差町における、これらの取り組み状況、あるいは来年に向けた対応についてお伺いします。

(議長)

「教育長」。

「教育長」

プログラミング教育について、の質問についてお答えいたします。2020年度新学習指導要領において、小学校段階からプログラミング教育が必修となります。文部科学省作成のプログラミング教育の手引きや、北海道教育委員会からも定期的にプログラミング教育に係る情報が発出されており、各学校においては、それらを参考に移行措置期間であります昨年度より、自主研修を行っております。2月には、教育委員会主催で小学校教員に対して、ロボットを利用した研修会を実施しました。また、今年度8月に市町村教育委員会連携研修講座で、プログラミング教育を題材に、北海道立教育研究所より講師を招いて、全小学校教員を対象の研修会を予定しております。実際に各小学校では、今年度より徐々に教科の中に、プログラミングを取り入れた授業を実施していく予定となっております。プログラミング教育については、工夫により様々な指導方法がございます。全国の実践例なども参考にしながら、校内研修を深め、来年度から始まるプログラミング教育の充実に努めて参りますので、ご理解をお願いいたします。

(議長)

いいですか。「塚本議員」

「塚本議員」

新たな新学習指導要領、また、新しい科目が増えるということで、非常に教員の皆さ

んの負担が増えてると同時に、なかなか慣れてない、このプログラミング教育を先生方だけに全面的に任せるとするのは非常に難しい点があるかなというふうに私も感じておりますが、道南に、これらの学科を持つてる大学、みらい大、あるいは高専、それらの大学等で、これらのプロの先生方、あるいは学生も中にもいるわけで、これらと連携しながら、江差町における教育現場でも、道南の情報学科を持つてる大学の、いろんな支援を受けて、更なるこのプログラミング教育の、子ども達が楽しく理解できる、そういう手法も十分考えられると思いますが、その辺いかがでしょうか。

(議長)

はい。「学校教育課長」

「学校教育課長」

大学等とも連携しながらプログラミング教育をと、いうことですが、既に函館教育大学の方からも、その専門の先生が研修等を実施できますということで、うちの方に相談にありまして、ありましたので、その辺については教育委員会として研修をその先生にお願いして、プログラミング教育の充実を図っていきたいと思っております。

それとプログラミング教育、先生達も始めてですので、苦手な先生もいるんじゃないかということですが、小学校のプログラミング教育についてはですね、高度な専門性が求められるものではございませんので、教師自らがプログラミング教育を研修とかで体験しましてですね、それほど難しいことではないことを実感して頂きたいというふうに思っています。

また、無理なく取り組めるようなですね、たんげん等から実施して、徐々にプログラミング教育の実施をたんげん等で広げていければというふうに考えておりますので、ご理解願います。

(議長)

いいですか。以上で、塚本議員の一般質問を終わります。